

平成26年度 文部科学省  
「総合的な教師力向上のための調査研究」委託事業

# 「初任者研修の抜本的な改革」

## 成果報告書



福岡市教育センター

# 目 次

<b>I 事業の取組について</b>	1
1 初任者研修における今日的課題	1
2 調査研究の目的	2
3 調査研究の具体的な内容・取組方法	3
4 調査研究校について	5
<b>II 校・園内研修 校種別内容</b>	6
1 小学校教諭 校内研修年間指導計画	6
2 中学校教諭 校内研修年間指導計画	8
3 特別支援学校教諭 校内研修年間指導計画	10
<b>III 調査研究の実例</b>	12
1 主題について	12
2 研究の目標	16
3 研究の仮説	16
4 検証の具体的方策	16
5 研究の実際	16
<b>IV 成果と課題</b>	26
1 成果	26
2 課題	26

# I 事業の取組について

## 1 初任者研修における今日的課題

### (1) 国の動向から

情報通信技術の進展，少子高齢化，教育要求の多様化等の急激な社会変化に伴い，学校は高度化・複雑化する諸課題へ対応することが求められている。このような状況であるため，たとえ1年次教諭であったとしても教員として高い実践的指導力が必要となる。それ故，校内1年次研修を充実させなければならないが，文部科学省(※以下，文科省という。)は以下の課題を指摘している。

- 初任者の9割が学級担任をしており負担過重の場合がある
- 指導教員が初任者の状況を十分把握できていない
- 学校全体で初任者を指導する体制が十分に整備できていない
- 初任者育成のノウハウを蓄積・活用する意識が持たれにくい

指摘された課題からは，負担軽減をしながら1年次教諭により即した研修を充実すること，指導体制を構築すること，育成のノウハウを蓄積・活用することの3つが求められていることがわかる。これらの求めに応え，1年次教諭が高い実践的指導力を身に付けることができる校内1年次研修を実施することは早急に取り組むべき課題である。

### (2) 本市の若年教員に係る状況

近年の若年教員は，実践的指導力，コミュニケーション力，チームで対応する力等，教員としての基礎的な力が不足していると文科省は指摘している(※引用2)。このような状況であるにも関わらず，福岡市では今後9年間，毎年200名規模の新規採用が続くと予想されており(福岡市教育委員会，2013)，教員全体の約3分の1は経験の浅い若年教員となる。それ故，安定した学校運営のためには，若年教員の育成が急がれる。

教職員を取り巻く現状と課題から本市においても，平成26年4月福岡市教育センターよりリーフレット「みんなで取り組もうOJT」が全市の市立学校に配布された。その中には，メンターがメンティに関わる上でのポイントやOJTの視点で協働する機会や場面の提案が具体的に示されている。また，指導教諭集中研修(平成24年福岡市教育センター)では，OJT推進の実践例をもとに成果と課題が整理された「OJT推進の手引き」が配布された。また5年前から，長期研修員による若年層教員等人材育成に関する研究が行われるなど，福岡市も喫緊の課題としてとらえている。

しかし，現在の福岡市の教員の年代別の人数をしてみると，最も多い割合は50代で，次に多い割合が20代から30代前半，30代後半から40代前半が最も少ないことが分かる(図-1)。今後，急激な大量退職・大量採用の時代を迎えるにあたり，退職する教員の経験やノウハウ等を次の世代に確実に伝え，受け継いでいくことが必要であり，現在福岡市で行っている取組を確実に浸透させていくことが，今後の学校現場を支える素地

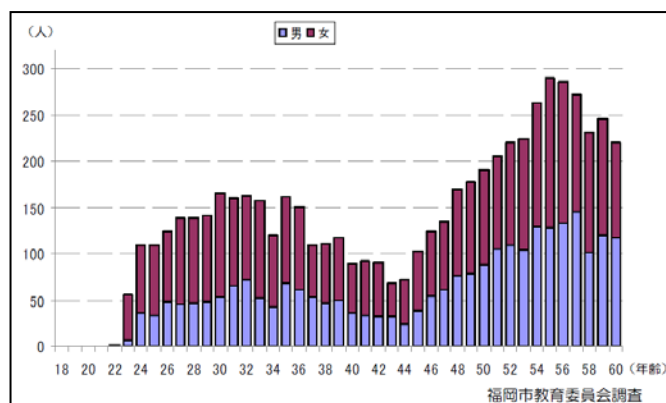


図-1 福岡市の教職員の年代別の人数  
福岡市教育データブック平成26年5月

になると考える。

### (3) 校内初任者研修における課題

毎年の課題であるが、校内指導教員の指導時間の確保が十分でなく、年度当初の計画よりも時数はもちろん、内容にも大幅な変更を余儀なくされている。特に1学期に比べ放課後の指導時間が増加し、3割強の学校が一日平均0.5h以上放課後に指導せざるを得ない状況にある。特に校内指導教員が教務主任の兼務や同学年の担任教師の場合は、時間設定が厳しい状況にある。

#### 【拠点校・校内指導教員の声】

- ・ 時間割変更があるとき、3校での調整を行い実施時間数と指導内容を確保することが、時期や変更曜日によって困難なときがある。
- ・ 本校の生徒状況により、他教科、他学年への入りこみ等が必要で、初任者にも指導者にも時間をかけて研修するゆとりがなかった。
- ・ 校務分掌の中核となるためのOJTを進めたいと思っているが、2,3年次には指導する先生が専門にはつかないのので校内で今後対応を考えたい。
- ・ 講師経験無しで採用された教諭は、子ども全体を把握する力に問題を感じる。授業を進めることだけで頭がいっぱいで、授業を受ける子どもの姿が見えていない。
- ・ 児童が下校後は、研修会等がありなかなか初任者研修の時間が設定できず、5時以降にすることが多かった。

## 2 調査研究の目的

公募要領別紙1の調査研究方式を試行実施し、その中で、下記の事項について整理しつつ、調査研究方式の成果、課題等を明らかにする。

### (1) 学校の選定等

- ・ 調査研究方式が実施可能な学校の特徴（学校規模、地域等）
- ・ 調査研究方式による学校の選定の上で、配慮すべき事項

### (2) 初任者研修の実施体制

- ・ 学校全体で指導する体制の整備の在り方  
(指導教諭等や指導教員をはじめとする教員ごとの役割分担等)
- ・ 初任者を副担任とするなど、負担軽減の方策
- ・ 初任者と2,3年目程度の教員との関わりの持ち方

### (3) 研修等の内容

- ・ 調査研究方式における初任者の年間の勤務として適切な在り方
- ・ 調査研究方式に適した年間の研修の在り方
- ・ 初任者の評価（評価方法、評価者等）

### (4) その他

- ・ 調査研究方式と現行の方式（拠点校方式、自校方式）との比較

### 3 調査研究の具体的な内容・取組方法

#### (1) 内容

##### ①研修体制の検証

- 研究対象校によって指導教員の位置づけを変え、それぞれの成果と課題を明らかにしていく。
- 指導教員を中心とした校内全体による指導体制のあり方を探る。中でも、初任者だけでなく若手教員も含めた育成を図る。

##### ②研修内容の検証

- 担任と副担任の教諭に応じた研修内容の工夫改善を行う。
- 指導教員の指導法の工夫改善を行う。

##### ③取組方法

- 小・中それぞれ2校，特別支援学校1校を調査研究対象校とし，3カ年計画で実施する。
- 研修体制については各学校へ提示し，具体的な研修内容については対象校と連絡調整を図りながら進めていく。
- 研究校連絡会の実施など、定期的に対象校と連絡調整をとりながら，必要に応じて学校への訪問，指導助言を行う。なお、研究校連絡会は、調査研究対象校指導教員5名・教育センター指導主事3名の計8名により構成し、年間3回程度開催する。
- 対象校間の円滑な連携を図れるよう，研修の進め方について適宜提示する。
- 調査研究に当たり、校長や研修主任、指導教員、初任者等に、ヒアリングやアンケート調査等を行い、成果や課題等を具体的に把握する。

(年3回・学期末・対象一学校長・校内指導教員)

#### (2) 校内の指導体制

下記役割分担を基本とし、各対象校において、指導教員を中心とした研修体制を組むが、研修実施において特に教務主任の位置づけを考慮していく。

また、小学校では初任者の学年配置についても調査研究が円滑に図れるよう考慮する。

##### ①校長

- 初任者研修推進の総括
- 初任者研修に係る校務の決定
- 初任者研修推進委員会の委員
- 計画に基づく一般研修や授業研修の指導者

##### ②教頭

- 指導体制整備・校務立案
- 初任者研修関係者への指導・助言
- 初任者研修推進委員会の委員
- 計画に基づく一般研修や授業研修の指導者
- 県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整

##### ③指導教諭・研修主任等（指導教員）

- 初任者研修全体のコーディネーター
- 初任者研修の年間の全体計画を作成し、指導にあたる。
- 初任者研修推進委員会の実施責任者

○原則として学級担任はしない。(指導教諭や研修主任等が望ましい。)

④その他各主任

○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者

○校務や配置学年等により初任者研修推進委員会の委員も想定

⑤一般教員

○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者

○2・3年目教員は、定期的な意見交換会等のメンバーを想定

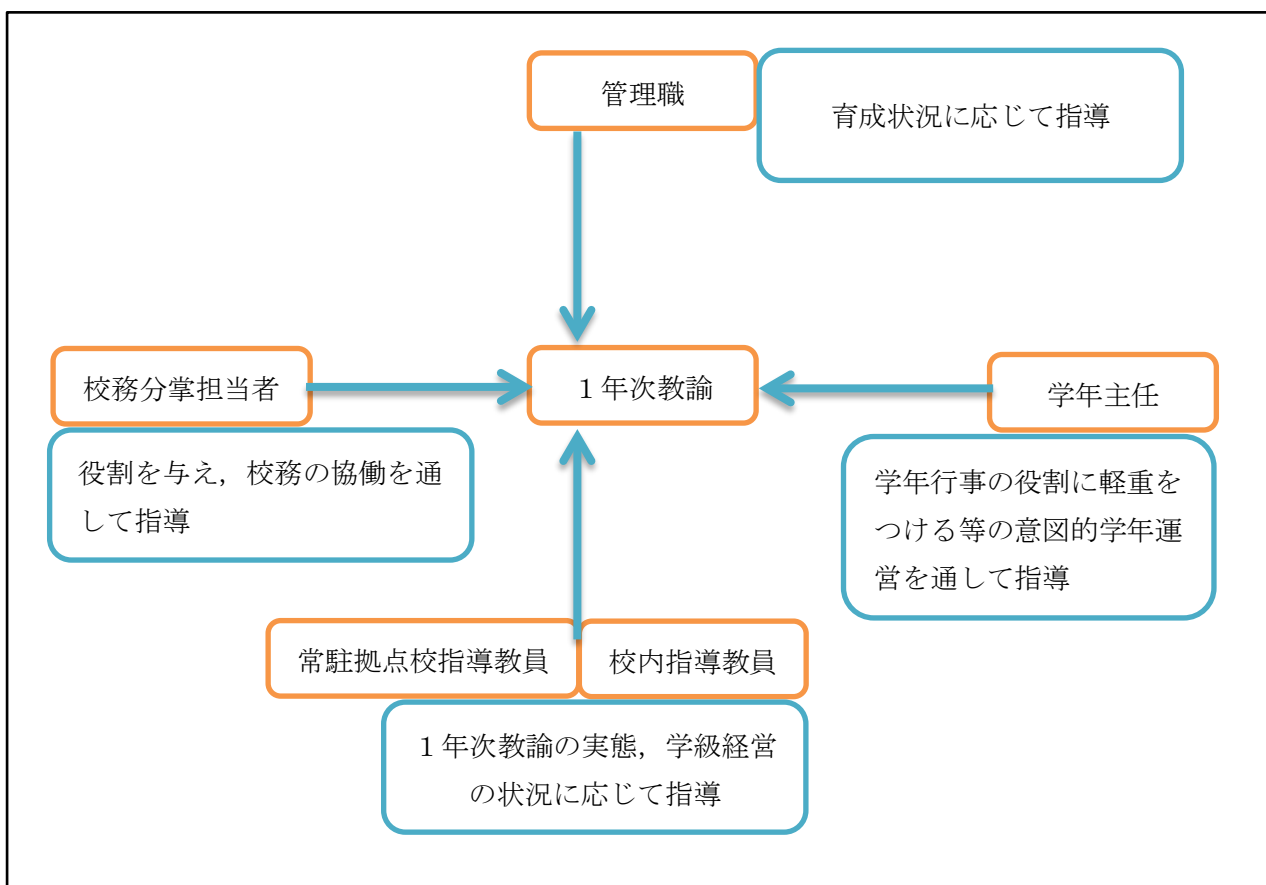
(3) 加配の活用方法

小学校校では指導教員に位置づけ、従来教務主任が中心に行っていたコーディネート的な役割も担うものとする。

中学校においては、小学校と同様な位置づけ方も取るが、教務主任が校内研修全体の企画を行い、指導教員が計画に基づき指導を行う形を基本とする。

(4) 初任者の勤務内容

3名配置の場合、2名は学級担任として配置する。1名は副担任としての位置づけとなる。指導においては、クラスに入り実践的な研修を基本に実施する。また、小学校では初任者の学年配置についても調査研究が円滑に図れるよう考慮する。



4 調査研究校について（小学校2校・中学校2校・特別支援学校1校 計5校）

①	学校名（校長名） 福岡市立下山門小学校（杉山 大樹）	
常勤教員数	29人	うち、学級担任外教員数（4人）
学級数	24学級	うち、特別支援学級数（1学級）
初任者配置数	3人	うち、学級担任としない初任者数（1人）
初任者の状況	A教諭	第4学年担任 25才 男 講師経験有り（1年）
	B教諭	第1学年担任 31才 女 講師経験有り（8ヶ月）
	C教諭	第2学年副担任 22才 男 講師経験無し
②	学校名（校長名） 福岡市立西高宮小学校（御厨 正治）	
常勤教員数	39人	うち、学級担任外教員数（7人）
学級数	32学級	うち、特別支援学級数（1学級）
初任者配置数	3人	うち、学級担任としない初任者数（1人）
初任者の状況	A教諭	第3学年担任 22才 女 講師経験無し
	B教諭	第4学年担任 23才 女 講師経験有り（5ヶ月）
	C教諭	担任外 29才 男 講師経験無し
③	学校名（校長名） 福岡市立姪浜中学校（越智 信彰）	
常勤教員数	50人	うち、学級担任外教員数（21人）
学級数	29学級	うち、特別支援学級数（1学級）
初任者配置数	2人	うち、学級担任としない初任者数（1人）
初任者の状況	A教諭	第1学年担任 23才 女 講師経験無し
	B教諭	第2学年副担任 23才 男 講師経験有り（1年）
④	学校名（校長名） 福岡市立西福岡中学校（松崎 治一）	
常勤教員数	29人	うち、学級担任外教員数（14人）
学級数	15学級	うち、特別支援学級数（1学級）
初任者配置数	3人	うち、学級担任としない初任者数（1人）
初任者の状況	A教諭	第3学年担任 26才 女 講師経験無し
	B教諭	第1学年担任 23才 男 講師経験有り（1年）
	C教諭	第2学年副担任 32才 男 講師経験有り（5年）
⑤	学校名（校長名） 福岡市立若久特別支援学校（日隈 富貴雄）	
常勤教員数	66人	
学級数	41学級	小学部18 中学部12 高等部11
初任者配置数	4人	全ての学級は複数担任制
初任者の状況	A教諭	小学部第1学年担任 24才 女 講師経験有り（2年）
	B教諭	小学部第4学年担任 27才 男 講師経験有り（2年）
	C教諭	中学部第1学年担任 30才 女 講師経験有り（4年）
	D教諭	中学部第2学年担任 31才 女 講師経験有り（7年）

## II 校・園内研修 校種別内容（教育センター作成）

### 1 小学校教諭 校内研修年間指導計画（例）

1 年次研修 校内研修年間指導計画（教科等の研修） ※120時間以上

月	教科	配時	道徳	配時	特別活動	配時	総合的な学習の時間	配時	外国語活動	配時	計
4	授業技術の基本①	2	道徳の年間指導計画作成	1	特別活動の全体計画	1	総合的な学習の時間について	1			11
	教科の年間指導計画作成について	1									
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	2									
5	学習指導案の作成について	1	道徳の授業の基本	1	学校図書館利用指導	1			外国語活動で育てたい力	1	11
	授業技術の基本②	2									
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	2									
6	授業技術の基本③	2	授業研究と示範授業	1	学級活動の指導	1	総合的な学習の時間の実際	1			13
	教材研究の方法と実際	1									
	授業研究と示範授業	5									
	教材研究	2									
7	授業の分析と評価	1	教材研究	1	児童会活動の指導	1			外国語活動の実際	1	10
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	2									
8	教材の分析	1									8
	教材教具の作成と活用	1									
	教材研究	6									
9	児童理解の方法と実際	1	授業研究と示範授業	1	遠足・集団宿泊的行事の指導	1					12
	教育機器の活用	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
10	評価の方法と実際	1	教材研究	1	授業研究と示範授業	1	総合的な学習の時間の実際	1			13
	授業研究の実際①	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
11	授業研究の実際②	1	授業研究と示範授業	1	学校行事の指導	1					12
	各教科の進め方①	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
12	個に応じた指導	1	教材研究	1	クラブ活動の指導	1	総合的な学習の時間の実際	1			10
	各教科の進め方②	1									
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	1									
1	学習形態の工夫	1	授業研究と示範授業	1	授業研究と示範授業	1					8
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	1									
2	課題研究について	1	道徳教育の反省と課題	1	委員会活動の指導	1	総合的な学習の時間の評価のあり方	1			10
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	2									
3	教科指導の反省と課題	1			特別活動の反省と課題	1					5
	授業研究と示範授業	2									
	教材研究	1									
計	95		10		11		5		2		123



1年次研修 校内研修年間指導計画（一般研修） ※50時間以上

月	基礎的素養	配時	学級経営	配時	生徒指導	配時	人権教育	配時	特別支援教育	配時	計
4	学校教育目標	1	学級経営案の作成について	1	児童のほめ方・叱り方	1	本校の人権教育	1	本校の特別支援教育	1	7
	教員としての心構え	1	清掃指導の実際	1							
5	服務・勤務について	1	学級経営の計画	1	学習態度形成の指導	1			配慮を要する児童の理解と支援	1	6
	校区の実状と児童の実態	1	教室の教育環境作り	1							
6	学校の組織と運営	1	給食指導の実際	1	児童理解の方法と実際	1	人権教育の視点に立った指導	1			5
			通信表の作成について	1							
7	諸表簿の処理と管理	1	通信表の作成	1	長期休業中の生活指導	1			適正就学指導について	1	5
			学級の組織作り	1							
8			学級経営の反省と課題	1	みんなのきまりについて	1	脳器差別に対する科学認識	1			5
			学級経営の計画(2学期)	1							
			学級通信の書き方	1							
9	PTAの組織と活動	1	学習参観・保護者会の進め方	1	生徒指導体制について	1	仲間作りの指導	1			5
			学級集団作り	1							
10	家庭や地域社会との連携	1	保護者への連絡と対応	1	問題行動の指導のあり方	1	人権学習の取り組み	1			4
11	学校の教育環境の整備	1					基礎学力の充実と進路保障	1	特別支援学級等との交流	1	3
12	学校保健・安全教育の進め方	1	学級経営の反省と課題	1	性に関する指導	1					5
			学級経営の計画(3学期)	1							
			通信表の作成	1							
1	現代的教育課題	1			集団指導と個別指導	1					2
2			指導要録の作成について	1					特別支援教育の反省と課題	1	3
			指導要録の作成	1							
3			学級経営の反省と課題	1	生徒指導の反省と課題	1	人権教育の反省と課題	1			4
			通信表の作成	1							
計	11		21		10		7		5		54

## 2 中学校教諭 校内研修年間指導計画（例）

### 1 年次研修 校内研修年間指導計画（教科等の研修） ※120時間以上

月	教科	配時	道徳	配時	特別活動	配時	総合的な学習の時間	配時		計
4	授業技術の基本①	2	道徳の年間指導計画作成	1	特別活動の全体計画	1	総合的な学習の時間で育てたい力	1		10
	教科の年間指導計画作成について	1								
	授業研究と示範授業	2								
	教材研究	2								
5	学習指導案の作成について	1	道徳の授業の基本	1	学校図書館利用指導	1				11
	授業技術の基本②	2								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
6	授業技術の基本③	2	授業研究と示範授業	1	学級活動の指導	1	総合的な学習の時間の実際	1		12
	教材研究の方法と実際	1								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
7	授業の分析と評価	1	教材研究	1	生徒会活動の指導	1				9
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
8	教材の分析	1			進路指導のあり方と実際	1				9
	教材教具の作成と活用	1								
	教材研究	6								
9	生徒理解の方法と実際	1	授業研究と示範授業	1	旅行・集団宿泊的行事の指導	1				10
	教育機器の活用	1								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
10	評価の方法と実際	1	教材研究	1	進路情報の収集と資料作成	1	総合的な学習の時間の実際	1		11
	授業研究の実際①	1								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
11	授業研究の実際②	1	授業研究と示範授業	1	学校行事の指導	1				10
	各教科の進め方①	1								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
12	個に応じた指導	1	教材研究	1	部活動の指導	1	総合的な学習の時間の実際	1		12
	各教科の進め方②	1								
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	3								
1	学習形態の工夫	1	授業研究と示範授業	1	授業研究と示範授業	1				9
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
2	課題研究について	1	道徳教育の反省と課題	1	委員会活動の指導	1	総合的な学習の時間の評価のあり方	1		10
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	2								
3	教科指導の反省と課題	1			特別活動の反省と課題	1				7
	授業研究と示範授業	4								
	教材研究	1								
計	93		10		12		5		120	

1年次研修 校内研修年間指導計画（一般研修） ※50時間以上

月	基礎的素養	配時	学級経営	配時	生徒指導	配時	人権教育	配時	特別支援教育	配時	計
4	学校教育目標	1	学級経営案の作成について	1	生徒のほめ方・叱り方	1	本校の人権教育	1	本校の特別支援教育	1	8
	教員としての心構え	1	清掃指導の実際	1							
			家庭訪問の意義と進め方	1							
5	服務・勤務について	1	学級経営の計画	1	学習態度形成の指導	1	人権8課題	1	配慮を要する生徒の理解と支援	1	7
	校区の実状と生徒の実態	1	教室の教育環境作り	1							
6	学校の組織と運営	1	給食指導の実際	1	生徒理解の方法と実際	1	人権教育の視点に立った指導	1			5
			通信表の作成について	1							
7	諸表簿の処理と管理	1	通信表の作成	1	長期休業中の生活指導	1			適正就学指導について	1	7
	学校職員と学校教育	1	学級の組織作り	1	校則について	1					
8			学級経営の反省と課題	1			脳器差別に対する科学的認識	1			4
			学級経営の計画(2学期)	1							
			学級通信の書き方	1							
9	PTAの組織と活動	1	学習参観・保護者会の進め方	1	生徒指導体制について	1	仲間作りの指導	1			5
			学級集団作り	1							
10	家庭や地域社会との連携	1	保護者への連絡と対応	1	問題行動の指導のあり方	1	人権学習の取り組み	1			4
11	学校の教育環境の整備	1					基礎学力の充実と進路保障	1	特別支援学級等との交流	1	3
12	学校保健・安全教育の進め方	1	学級経営の反省と課題	1	性に関する指導	1					5
			学級経営の計画(3学期)	1							
			通信表の作成	1							
1	現代的教育課題	1			集団指導と個別指導	1					2
2			指導要録の作成について	1	生徒指導の反省と課題	1	人権教育の反省と課題	1	特別支援教育の反省と課題	1	5
			指導要録の作成	1							
3	学校行事の反省と課題	1	学級経営の反省と課題	1							3
			通信表の作成	1							
計	13		22		10		8		5		58

### 3 特別支援学校教諭 校内研修年間指導計画（例）

1 年次研修 校内研修年間指導計画（教科等の研修） ※120時間以上

月	教科、教科及び教科を合わせた指導	配時	道徳	配時	特別活動 自立活動	配時	総合的な学習 の時間	配時	外国語活動	配時	計
4	指導要領と領域・教科を合わせた指導について	1			指導要領と自立活動	1					13
	個別の年間指導計画作成について	1			指導要領と特別活動	1					
	授業技術の基本①	2			特別活動の教育的意義	1					
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	2									
5	学習指導案の作成について	1	指導要領と道徳教育	1	自立活動の目標と内容	1					12
	指導要領と教科指導	1			個別指導計画の作成について	1					
	授業技術の基本②	1									
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	2									
6	チームティーチングについて	1			自立活動の指導と方法	1	総合的な学習の時間の考え方	1			12
	生活単元学習と作業学習の計画	1			進路や就労の現状と課題	1					
	教材研究の方法と実際	1									
	授業研究と示範授業	4									
	教材研究	2									
7	生活単元学習と作業学習の指導と方法	1			児童会・生徒会活動の指導	1			外国語活動の意義	1	8
	授業研究と示範授業	2			通いの状況・特性に応じた自立活動	1					
	教材研究	2									
8	実態に応じた教材教具の作成と活用	1									8
	遊びの指導	1									
	教材研究	6									
9	授業の分析と評価	1			進路指導の実際	1			外国語活動の実際	1	13
	日常生活の指導	1									
	排泄指導の進め方	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
10	授業研究の実際①	1			産業界における実習について	1	総合的な学習の時間の実際	1			12
	着脱指導の進め方	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
11	授業研究の実際②	1			交流教育の意義	1					11
	食事指導の進め方	1									
	授業研究と示範授業	6									
	教材研究	2									
12	個に応じた指導	1			交流教育の実際と進め方	1					8
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	3									
1	学習場面設定の工夫	1			クラブ活動の進め方	1					9
	学習指導と評価の在り方	1			教材教具の分類と整理	1					
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	2									
2	課題研究について	2	道徳教育の反省と課題	1	特別活動の反省と課題	1	総合的な学習の時間の評価のあり方	1			10
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	2									
3	生活単元学習・作業学習の反省と課題	1			自立活動の反省と課題	1					7
	次年度年間計画について	1									
	授業研究と示範授業	3									
	教材研究	1									
計		99		2		17		3		2	123

1 年次研修 校内研修年間指導計画（一般研修） ※50時間以上

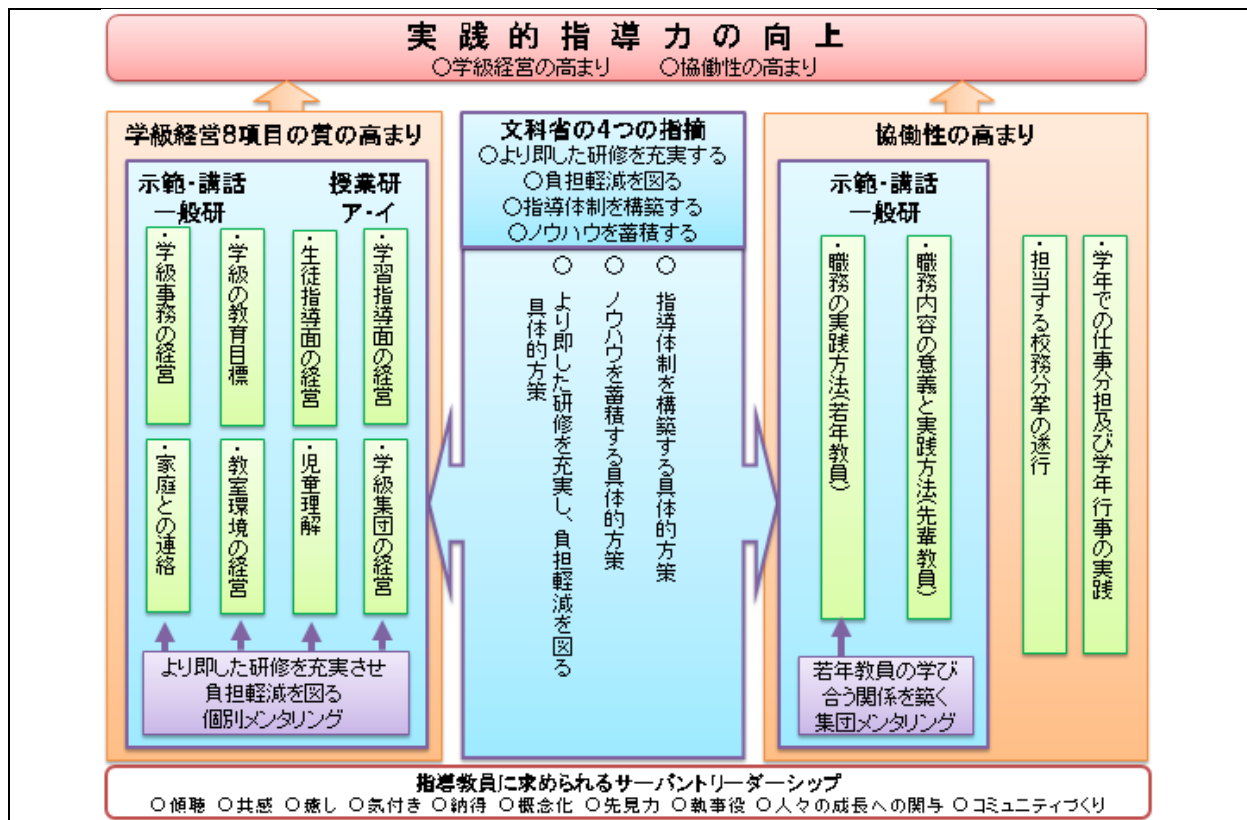
月	基礎的素養	配時	学級経営	配時	生徒指導	配時	人権教育	配時		計
4	学校教育目標	1	学級経営案の作成について	1	学習姿勢・態勢の確立	1	本校の人権教育	1		7
	教員としての心構え	1	清掃指導の実際	1						
			学校事務進め方	1						
5	服務・勤務について	1	家庭との連携	1	教育相談の在り方	1				6
	学校の実状と児童・生徒の実態	1	教室の教育環境作り	1	児童・生徒のほめ方・叱り方	1				
6	学校の組織と運営	1	関係諸機関との連携	1	児童・生徒理解の方法と実際	1	人権教育の視点に立った指導	1		6
	校内研修の進め方	1	通信表の作成について	1						
7	諸表簿の処理と管理	1	通信表の作成	1	長期休業中の生活指導	1	人権8課題	1		5
					問題行動の指導の在り方	1				
8			学級経営の反省と課題	1			隔週別に対する科学認識	1		3
			学級経営の計画(2学期)	1						
9	PTAの組織と活動	1	学習参観・保護者会の進め方	1	生徒指導体制について	1	仲間作りの指導	1		6
	適正就学指導について	1	係活動について	1						
10	学校行事のねらいと種類	1	保護者への連絡と対応	1	校内外の安全指導	1	人権学習の取り組み	1		5
			清掃指導について	1						
11	学校の教育環境の整備	1					基礎学力の充実と進路保障	1		2
12	学校保健・安全教育の進め方	1	学級経営の反省と課題	1	性に関する指導	1				5
			学級経営の計画(3学期)	1						
			通信表の作成	1						
1	現代的教育課題	1	指導記録の作成と活用	1						3
	学校職員と学校教育	1								
2			指導要録の作成について	1	生徒指導の反省と課題	1	人権教育の反省と課題	1		4
			指導要録の作成	1						
3	学校行事の反省と課題	1	学級経営の反省と課題	1						3
			通信表の作成	1						
計	15		22		10		8			55

### Ⅲ 調査研究の実例

#### 1 年次教諭の実践的指導力の向上を図る実証研究

ーメンタリングを位置付けた調査研究方式における校内1年次研修の試行を通してー

福岡市立西高宮小学校



#### 1 主題について

##### (1) 1年次教諭の実践的指導力の向上とは

本研究では、1年次教諭に求められる実践的指導力を、学級経営と協働性の高まり、2つに絞り込んで設定した。理由は以下の通りである。

まず、時田(※参考1)が指摘するように、実践的指導力の具体的な項目は示されていない。しかし「実践的指導力の基礎」については「採用当初から学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等に著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」と文科省は示している(※引用4)。このことから1年次教諭に求められる実践的指導力とは、安定した学級経営を行うことであることが読み取れる。加えて、全国的に早い時期から夜間教師道場を開催し研修についての先見性が高い福岡市教育センター主催の採用年次に応じた研修では、1年次教諭の研修内容は学級経営についてのものが多い。これらのことを踏まえると、1年次教諭に求められる実践的指導力とは、安定した学級経営を行うことであると捉えられる。また、安定した学級経営については「若い教師のための教育実践の手引き」(※引用5)に示される学級経営の評価法の具体例8項目(※以下、学級経営8項目)の質を高めることが必要不可欠である。

次に、近年の学校が抱える高度化・複雑化した諸課題は、チームで対応することが原則であるため、1年次教諭に求められる実践的指導力には職員と協働することも含まれる。

(2) メンタリングとは

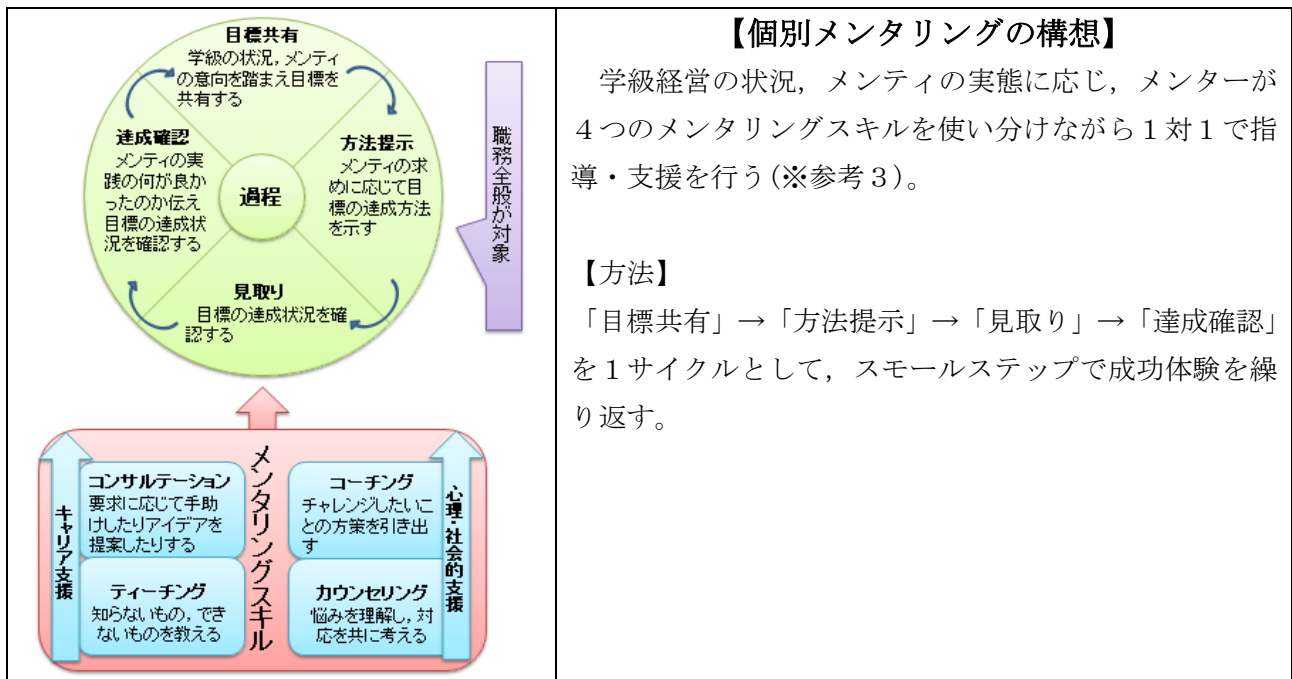
メンタリングとは、メンター(※以下、指導教員を指す)の過去の成功体験を押し付けることなく、メンティ(※以下、1年次教諭を指す)の実態に合わせ惜しみない指導・支援を行うことである。メンティの個性を尊重し一つの才能がなくとも別の才能を見出し将来の可能性を追求することを基本的考え方とするメンタリングは、人に優しい指導法と言われる(※参考2)。よってメンタリングは、若年教員を指導する難しさを克服する指導方法といえる。

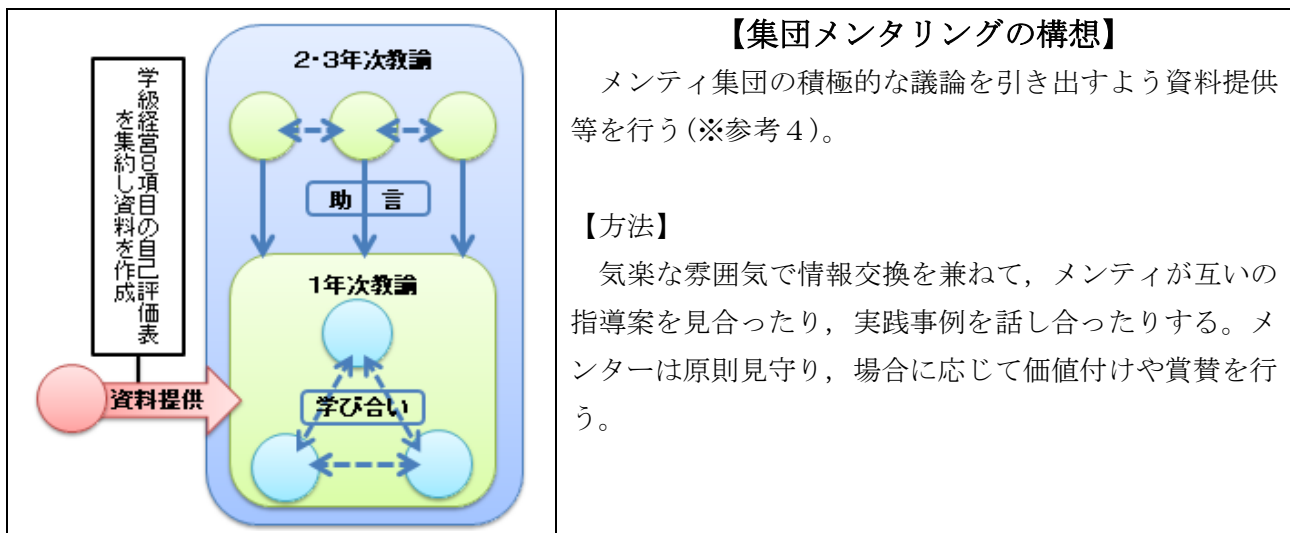
このメンタリングには、個別に行う個別メンタリングと、集団で行う集団メンタリング、2つの形態がある。

まず、個別メンタリングとは、メンターが、メンティに、コーチング、カウンセリング等のメンタリングスキルを用い、キャリア支援(※職能支援)と心理・社会的支援(※意欲支援)を行うことである。

次に、集団メンタリングとは、短時間でを行う効果的な人材育成の手法として富士通株式会社が行っているメンティ集団のミーティングのことである。

これら個別と集団、双方のメンタリングは、メンティの実態に合わせて行うため指導・支援は、職務全般を対象とする。





メンティ集団の積極的な議論を引き出すよう資料提供等を行う(※参考4)。

【方法】

気楽な雰囲気の中で情報交換を兼ねて、メンティが互いの指導案を見合ったり、実践事例を話し合ったりする。メンターは原則見守り、場合に応じて価値付けや賞賛を行う。

(3) メンタリングを位置付けた校内1年次研修とは

校内1年次研修における文科省の求めと、若年教員への指導の難しさを克服するため、個別と集団双方のメンタリングを位置付けた校内1年次研修のことである。これを試行するにあたり3つの具体的方策を構想した。

① 負担軽減を図り、より即した研修を充実する具体的方策

個別メンタリングによる指導・支援	研修区分	文科省が指摘する若年教員に不足するとされる教員としての基礎的力の向上への効果			期待する効果
		実践的	コミュ	チーム	
<p><b>個別メンタリング</b></p> <p>・学級経営の状況、1年次教諭の実態に応じた指導・支援</p>	<p>示範・講話</p> <p>一般</p> <p>個人研</p>	◎	△	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次教諭の負担軽減</li> <li>・学級集団の安定化</li> <li>・学習指導方法の獲得</li> <li>・学習指導の充実</li> </ul>

◎：高い効果を期待 ○：効果を期待 △：効果の期待は低い

「実践的」：実践的指導力の略、「コミュ」：コミュニケーション力の略、「チーム」：チームで対応する力の略

メンティの負担軽減を図り、より即した研修の充実をするため、個別メンタリングを位置付けた。また、個別メンタリングによる指導・支援は研修区分に充てることことができる。

個別メンタリングでは、学級経営の状況、メンティの実態に応じて、メンターが授業や学級事務、生徒指導上の諸問題の対応を共に行い、メンティの負担軽減を図る。併せて、これらを行うとき、授業の方法や学級事務の効率化の方法、生徒指導上の諸問題の対応の方法を示す。さらには、後に資料提供等を行い、学級での具体的事例に結び付けた講話も可能である。北村は(※引用7)、研修の効果が最も高いのは実践することであると述べており、個別メンタリングによる実践を通した研修は、その効果が高いと考えられる。そこで、示範授業・TTを以下のように構想した。



示範授業・T Tの構想				
	形態	目的	期待する効果	
示範授業	1時間の単発	・基本的授業展開を示す	・基本的授業展開の方法を獲得	
	1単元の継続	・単元指導計画の構想方法，形成的評価による単元指導計画の修正等の具体的方法を示す	・単元指導計画に応じた授業展開の方法を獲得 ・形勢的評価の方法を知り，単元指導計画の修正の仕方を獲得	
	1日を通して	・1日を通して，学級事務の方法，生活面の指導方法を示す	・1日の指導の流れを獲得 ・客観的に自分の学級を観察し，自らの指導を省察	
T T	役割を分ける	・教具の準備の方法，発問，板書等の具体を示す	・1年次教諭の授業力，教材研究の不足を補う	
	補助のみ行う	・授業を充実させる補助発問等 ・安全指導の充実	・授業実践を行いながら指導方法を実感的に獲得	

・学習規律の定着を図る  
・負担軽減を図る

## ② 指導体制の構築を図る具体的方策

教員ごとの役割の明確化 集団メンタリングの位置付け		研修区分	文科省が指摘する若年教員に不足するとされる教員としての基礎的力の向上への効果			期待する効果
			実践的	コミュ	チーム	
校務分掌 担当者	・校内1年次研での講話	示範・講話 一般研修	△	○	△	・校務分掌の実践方法の獲得 ・校務分掌を実践する意識の向上 ・校務分掌の遂行 ・分掌が同じ職員との協働性の向上
	・校務分掌において役割を与える		◎	◎	◎	
学年 主任	・学年会等での日常的助言	示範・講話 一般研修	◎	○	○	・学級担任として日々の円滑な実践 ・同学年職員との協働性の向上 ・負担軽減
	・学年運営において意図的に役割を与える		◎	◎	◎	
2・3年次 教諭	<b>集団メンタリング</b> ・1年次教諭への助言	示範・講話 一般研修	◎	◎	○	・学級担任として日々の円滑な実践 ・若年教員との学び合う関係の構築
1年次 教諭	<b>集団メンタリング</b> ・1年次教諭同士の学び合い		◎	◎	○	

◎：高い効果を期待 ○：効果を期待 △：効果の期待は低い

「実践的」：実践的指導力の略，「コミュ」：コミュニケーション力の略，「チーム」：チームで対応する力の略

組織的にメンティを育成する指導体制を構築するため，教員ごとの役割を明確にし，集団メンタリングを位置付けた。また，校務分掌担当者からの講話と集団メンタリングは，研修区分に充てることができる。

まず，校務分掌を実践することは，人材育成の機会として効果が高いと文科省により報告されている（※参考5）。よって，校務分掌担当者が意図的に役割を与えると，メンティは同じ分掌職員との協働性を醸成することができる。

次に，運動会の練習等を行う学年合同授業で，1学期はメンティの負担軽減の比重を大きくし，3学期は実践の比重を大きくするよう学年主任が意図して役割を与える。このことによって，学級

事務が煩雑となる年度当初，メンティの負担軽減を図るとともに，同学年職員との協働性を醸成することができる。

最後に，集団メンタリングは，若年教員同士の学び合う関係を築き，職務についての向上意欲を高めることが可能であるため，若年教員同士の自主的研修の起因と成り得る。

### ③育成のノウハウを蓄積・活用する具体的方策

メンタリングを位置付けた校内1年次研修を試行する過程において，学級経営の状況を観察・記録するとともに，適宜メンティへのアンケート調査を行う。これらをもとに年間研修のあり方を授業研究の開始時期，研修内容，校外研修との関連付けの観点から検討を加え，メンティの段階的育成目標を構想し，校内1年次研修試案を作成する。

## 2 研究の目標

- 1年次教諭の実践的指導力の向上を図る。
- 段階的育成目標を組み込んだ校内1年次研修試案を作成する。

## 3 研究の仮説

メンタリングを位置付けた校内1年次研修を行えば，1年次教諭の実践的指導力を向上させることができるであろう。

## 4 検証の具体的方策

- 学級経営8項目の質の高まりについて，以下の観点から分析する  
自己評価，客観的評価，板書，授業研究における指導案，個別メンタリングにおける共有目標
- 協働性について，以下の観点から分析する  
校務分掌の実践状況，学年の仕事の実践状況，集団主義尺度

## 5 研究の実際

### (1) 負担軽減を図り，より即した研修を充実する具体的方策の実際と考察

#### ① 個別メンタリング実施の経過

メンティ	1学期			2学期		
	示範	TT	個人研修	示範	TT	個人研修
A教諭(担任，大学新卒，女性)	36	9	17	17	4	17
B教諭(担任，講師経験有り，女性)	24	24	10	17	16	13
C教諭(副担任，教育実習未経験，男性)	26	41	31	34	7	13

※「示範」：メンターによる示範授業，「TT」：メンターがT2を行った授業

大学新卒者は，学級経営の実践方法についてわからないものが多く，年度当初に行う児童の係決め等については教育実習での経験もない。加えて，初任者は男性より女性のストレスが大きいと石原(※参考7)が指摘している。そこで，年度当初はA，B教諭が不安を感じている授業について示範授業を行ったり，T2で授業支援を行ったりし，ストレスの軽減を図るようにした。加えて，職務の進捗状況を把握し，通信表作成など職務が煩雑になる時期は個人研修を多く設定するようにした。

まず，1学期間を概観すると，大学新卒者であるA教諭には，学級活動第1時は示範授業で具体を示し，第2時はT2で授業支援を行った。このように示範授業とTTを使い分けながら指導・支援を

行くと、必然的にA教諭に行った示範授業は多くなり4月12時間、5月9時間、6月13時間となった。一方、B教諭は講師経験があるため、A教諭に比べ示範授業は少なく、T2で授業支援を行った回数が多くなった。C教諭は授業実践すること自体が初めてであったため、板書計画等の授業準備ができるよう個人研修を多く設定した。さらに、C教諭がT1として授業を行うときは、メンターか学級担任がT2で授業支援を行うようにした。

次に、2学期間を概観すると、メンティ3名は、授業の質的向上のための示範授業を要望するようになった。また、B教諭が理科の実験を行うときは安全指導を徹底するためT2で授業支援を行った。そのためB教諭に行ったTTの時間は多い。C教諭は、2学期から学級担任となり困惑することも多かったため示範授業の回数が他の2名よりも多い。

## ② B教諭に行った個別メンタリングの1サイクル

### ア メンタリングシートの作成

メンティは、校内1年次研修における授業研究の協議会で、授業を参観していただいた管理職、複数の先輩教諭から多くの指導・助言を受ける。それらを整理し、メンティが短期目標を立てられるようにするためメンタリングシートを作成した【図2】。

【図2：メンタリングシート】

メンタリングシート

授業研究 振り返りシート

○ メモ (協議会等で先輩方からご指導を受けたことを忘れないよう書き留めましょう。)

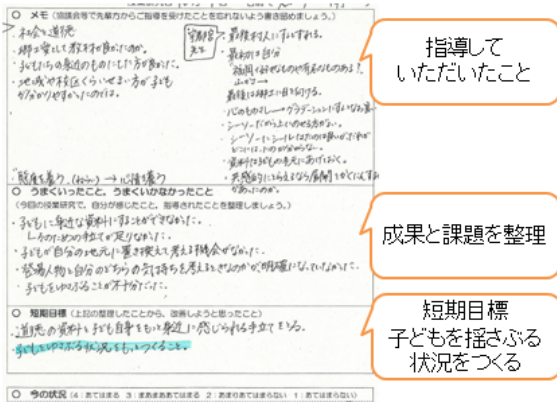
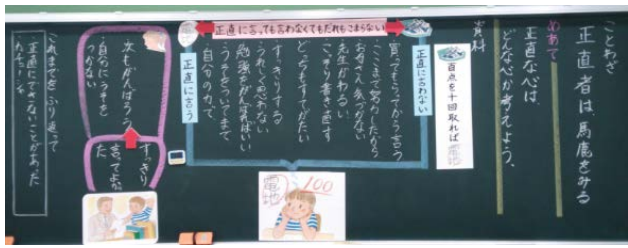

○ うまくいったこと、うまくいかなかったこと (今回の授業研究で、自分が感じたこと、指導されたことを整理しましょう。)

○ 短期目標 (上記の整理したことから、改善しようと思ったこと)

○ 今の状況 (4件法)

・心が染るか、・やる気があるか、・やり方がわかるか、・情報は足りているか、・感想

イ B教諭に行った個別メンタリングの1サイクルの実際

<p>《i 目標共有》 対話を通して、メンティの意向を踏まえ短期目標を共有した。</p> 	<p>《ii 方法提示》 「子どもをゆさぶる」方法について、資料提供・講話がよいか、実際に示範授業を観たいか尋ねるとメンティは示範授業を要望した。そこで、葛藤場面を中心とした資料を用い、同学年の他学級で示範授業を行い「子どもをゆさぶる」具体を示した。</p> 
<p>《iii 見取り》 メンティはメンターが示した具体をもとに、自分流にアレンジした「子どもをゆさぶる」授業を行った。 ※短期目標の達成状況は、他教科でも日常的に見取りを行っている。</p> 	<p>《iv 達成確認》 有効だった手立てと「ゆさぶり」の達成状況を伝えた。メンティは管理職から「以前より子どもの本音がでていた」とお褒めをいただいたようで、メンタリングシートには「前よりも良くなった」と指導されたメモが残っていた。これで短期目標の達成となる。</p>

※実施期間 2014年10月7日～14日

③ 3名のメンティに行った個別メンタリングのまとめと考察

ア 3名の短期目標の変容

各学期初めの個別メンタリング1・2サイクル目と、7・8サイクル目を抽出するとメンティ3名の短期目標は以下ようになる。

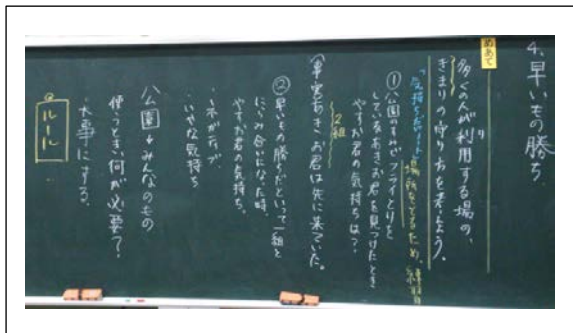
メンティ3名の短期目標の変容				
	サイクル	A教諭	B教諭	C教諭
1学期	1	声のスピード、大きさにメリハリをつける	本文に戻りながら国語の学習を進める	楷書で最後まで筆圧を強く書く
	2	本時目標の明確化と興味関心の持てる活動の工夫	児童が活動内容を理解して取り組む授業をする	発問を練る
2学期	7	みんなが発表できるような工夫をする	子どもを揺さぶる授業をする	算数の理論を学び、授業に活かす
	8	グループ交流の目的、方法を明確にする	まとめとめあての言葉の精選	子どもが活動しやすいよう指示を的確に出す

1学期の短期目標は、主に授業技術、各教科の指導の型についてのものが多く、2学期は授業の質的改善のものが多く。このことから、メンティは自らの授業課題を捉えられるようになってきていることがわかる。また、3名とも学習規律の確実な定着を目標としており、特に2学期から学級担任となったC教諭は、授業を通じた学習規律の定着を基本的な目標として掲げている。

これらのことから「学習指導面の経営」「学級集団の経営」についての質的向上を図ろうとする実践面の変容が認められる。

#### イ 板書の変容

【写真4：C教諭の道徳の板書】



【写真5：構造化されたC教諭の板書】



C教諭が道徳の基本展開をつかめていないときの板書は【写真4】であるが、教材研究の方法と基本展開がつかめてくると【写真5】のように構造的な板書となった。これは他の2名にも同様に見受けられ、メンティは教材を体系的に捉え、板書を構造化することができるようになってきている。このことから「学習指導面の経営」について実践面の変容が認められる。

#### ウ 授業研究における指導案の変容

A教諭は、国語科での授業研究を第1回目と第7回目に行っている。指導案に書かれた児童の活動についての文字数を比較すると、第1回目は202文字、第7回目は881文字になっている。この違いは本時目標を達成するための児童の活動を構想することができるようになってきているからでありこれは他の2名にも共通して見受けられる。このことから「学習指導面の経営」について実践面の変容が認められる。

#### エ 自己評価の変容

学級経営8項目の自己評価のポイント数は、概ね上昇傾向にある。「学級集団の経営」のポイント数が下がっているのは、2学期から担任を始めたC教諭のポイント数が低いからである。しかし、C教諭の自己評価の内訳を見ると、10月から12月のポイント数は2P→1.6P→2.5Pと上昇傾向にある。よって、メンティ3名は自身の学級経営の質の高まりを感じている。

1学期から2学期における3名の自己評価の平均ポイント数の変容 ※4件法			
学級の教育目標 (下位4項目)	児童理解 (下位6項目)	学級集団の経営 (下位5項目)	学習指導面の経営 (下位7項目)
2.56→2.65	2.47→2.89	2.47→2.07	1.95→2.29
生徒指導面の経営 (下位6項目)	教室環境の経営 (下位3項目)	学級事務の経営 (下位3項目)	家庭との連絡 (下位3項目)
2.17→2.5	2.63→2.81	2.12→2.33	2.37→2.93

※1学期4回(4~7月)、2学期3回(10~12月)の計7回実施、4件法、中央値3



#### オ 管理職による客観的評価

メンティが感じている自己評価の伸びが妥当であるか、校長に評価を依頼した。5件法で行った評価のポイント数は、3名ともに中央値「3」の評価を受けており、このことからメンティが感じている伸びは妥当であることが認められる。

校長による評価のポイント数の平均 3.00, 中央値「3」
※5：自己評価より伸びはかなり高い，4：自己評価より伸びは高い，3：自己評価と同等，2：自己評価より伸びは低い，1：自己評価より伸びはかなり低い

#### カ 児童の実態による客観的評価

学校環境適応感尺度アセス(※参考8)の因子を用いて「児童理解」「学習指導面の経営」「学級集団の経営」、社会性と情動の学習 sel-8s(※参考9)の適応次元を用いて「生徒指導面の経営」を児童の実態から評価した。その結果は以下の通りであり、どの学級も安定した学級経営がなされていることが認められる。

学級経営8項目	因子(上)と適応次元(下)	3クラスのポイント数の平均
児童理解	教師サポート	53.7
学習指導面の経営	学習的適応	53.3
学級集団の経営	友人サポート	49.3
	非侵害的關係	49.3
生徒指導面の経営	責任ある意思決定	54.6
	生活上の問題防止のスキル	51.7
	人生の重要事態に対処する能力	51.4

※どちらの心理尺度も一般的平均値 50P, 要支援 40P 以下である

#### キ 職場ストレス尺度による負担軽減についての測定

メンティの負担軽減ができていないか、心理尺度を用いて測定した。メンティ3名の測定値は標準偏差内に留まっており、心理尺度からは過度のストレスを感じていないと判断される。

職場ストレス尺度								
一般的平均値 (標準偏差)	過度の圧迫感		役割不明瞭		能力欠如		過度の負担	
		18.81 (4.409)		16.86 (4.085)		24.09 (6.114)		22.32 (4.032)
3名の平均値	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
	15.67	20.5	10.3	10.67	20.5	19.17	16.17	18.33

※2014年5～12月，計4回実施

#### ク 個別メンタリングの考察

以上、ここまで述べてきた、短期目標、板書、指導案、自己評価、客観的評価において、メンティの学級経営の質が高まっていること、負担軽減ができていないことが認められた。よって、個別メンタリングを位置付けることはメンティの負担軽減を図り、より即した研修を充実させるとともに、学級経営の高まりについて有効であると考えられる。

#### ケ C教諭の様相から

C教諭は、大学の教員養成過程において使命感、実践的指導力の基礎等を身に付けずに4月当初より副担任として実践を始めた。そのため、C教諭の困惑する姿は多く見受けられた。よ

って、赴任してからの研修プログラムの開発、若しくは、赴任の時期をずらしその間インターン的に研修を行う等、文科省の検定試験で教員免許を取得した教諭については、研修の在り方赴任する時期について検討する余地がある。

## (2) 指導体制の構築を図る具体的方策の実際と考察

### ① 校務分掌担当者による役割分担の実際と考察

〔写真1：体力テストの場作りの様子〕



メンティ3名は体育部に所属しており【写真1】は体力テストの場作りをしている様子である。体育部が行う年間の活動について体育主任が講話を行い、メンティに役割を与えた。すると、運動会、水泳の学習等の事前準備の際、自ら指示を仰ぎ率先して行動していると、体育主任から報告を受けている。このことから3名には協働的行動が認められる。

### ② 学年主任による役割分担の実際と考察

【表1：学年合同授業の実施時数】

	1学期	2学期
A教諭	40	21
B教諭	37	39
C教諭	55	31

【写真2：音楽発表会の合奏指導をするA教諭】



【表1】からわかるように運動会の練習等、学年合同授業の時数は多い。よって、学年合同授業を研修の視点から捉え直すと、学年主任が意図的に役割分担をすれば、メンティの育成が可能となる。1学期の運動会の練習では、児童の演技指導をメンティと同学年を組む先輩教諭が行い、メンティは先輩教諭の指導の方法を見る機会を多く得た。また、先輩教諭が指導を行うことは、メンティの負担軽減にもなる。一方、職務の実践に慣れてくる2学期は、合奏指導をする役割を与えても【写真2】のように実践できる余裕が生まれている。このように意図的に役割分担し協働する機会を増やした結果、程度の違いはあるもののメンティは、担当する学年での役割を率先して行っていると各学年主任から報告を受けている。このことから、メンティ3名の協働的行動が認められる。

### ③ 集団メンタリングの実際と考察

#### ア 集団メンタリング実施の経過

1学期はメンティ3名のみでの授業づくり、2学期は2年次以上の教諭からの助言という形態で集団メンタリングを行った。また、2学期の集団メンタリングを実施するにあたり、メンティ3名の学級経営8項目(※下位37項目、4件法)の自己評価を集約し、それを資料として

提供し活発な議論を引き出すようにした。集団メンタリングの主な内容と経過は以下の通りである。

集団メンタリングの主な内容(1回30分)		
1 学期	1～3回目	B, C, A教諭の順に, 各自が作成した指導案の指導案審議
	4～6回目	C, B, A教諭の順に, 各自の板書づくりについて意見交換
	7～9回目	B, C, A教諭の順に, 簡略化した模擬授業を行い, 意見交換
2 学期	10回目	メンティが抱える学習指導の悩みについて, 2・4年次教諭が助言
	11回目	児童の実態に合わせた学習指導を各自創意工夫して共通実践することを話し合っ て決定
	12回目	共通実践を持ち寄り情報交換し, 4年次教諭が助言
	13回目	メンティが抱える学習指導の悩みについて, 4年次教諭が助言
	14回目	2学期の実践を振り返りながら情報交換
	15回目	15回目: 2年次研修についての意見交換(メンティのみ)

※実施期間 2014年6/11～12/26, 合計15回

#### イ 集団メンタリング実施の実際と考察

【写真3: メンティ3名の意見交換】

【資料1: 4年次教諭の助言(12回目)】

	<p>メンティ:「これを見て, 提示する資料が大事だ と思いました。」 4年次教諭:「解答を書く力をつけるには, 感想 を書かせるとき, この言葉, この言葉を使って学 習の感想を書いてごらんと指示すると, 書けるよ うになってくる。普段から意識してするといいと 聞いたことがあるよ。」 ※一部抜粋</p>
--	---

【写真3】は, 6回目の集団メンタリングで, A教諭の板書についてメンティ3名が意見交換している様子である。黒板には3名のアイデアが凝集されわかる授業づくりを目指す3名の協働的行動が認められる。

【資料1】は, 12回目の集団メンタリングについて4年次教諭が社会の学習指導について行った助言である。集団メンタリングの感想をメンティは以下の感想を述べており, 内容からは協働するよさを感じていることが伺える。



- みんなで思ったことや考えを出し合うということの良さを感じました。同じ年代の人たちと気を遣わず思ったことを言えることは、同じようなことを思っていたんだということで安心しました。
- 悩みや問題、課題を共有でき、戸惑っているのは自分だけではないという考えが生まれました。気持ちが楽になりました。先輩方のお話もすごく参考になりました。身近な目標として、頑張っていきたいです。
- 自分が悩んでいることに共感してくれる先輩方の存在が頼もしかったです。たくさんのアドバイスをお聞きして、特に自主的・主体的な学習態度を育成することの難しさが、どの先生にも共通していて、その中でも自分から主体的に技を盗みとる必要性を感じました。※下線筆者

#### ウ 集団主義尺度のポイント数の変容

メンティ3名の集団主義尺度のポイント数が以下のように変容し、メンティ3名の凝集性が高まったことが認められる。

一般的な平均値	43.62(標準偏差 7.20) $\alpha$ 係数.77
メンティ3名の平均値	42.00(7月) → 43.00(12月)

#### ④ 指導体制の構築についての考察

以上、校務分掌の実践、学年での実践、集団メンタリングの3点において協働的行動が認められた。加えて、凝集性の高まりも認められた。よって、教員ごとの役割を明確にし、集団メンタリングを位置付けた指導体制は、メンティの協働性を高めることについて有効であるとともに、1年次研修を離れた育成が可能である示唆を得られた。しかし、若年教員集団の自主的研修の開催には至っておらず集団メンタリングを活性化する必要がある。

### (3) 育成するノウハウを蓄積する具体的方策の実際

#### ① 授業研究の開始時期について検討

授業力向上を図る授業研究は、安定した学級経営を行う上から4月当初から行うことが望ましい。しかし、メンティは、授業展開の方法がわからないものも多く、授業研究を行うこと自体が難しい場合もある。加えて、日々の職務の実践に追われ、授業研究が過度の負担となる場合もある。そこで、メンティは単独でどの程度授業を行えると考えているのか、アンケート調査を継続して3回行った。

#### ② アンケートの内容

各教科の指導法の違いにより全26項目の下位項目を設定し、項目毎に単独で授業ができると思う項目に丸をつける方法(※複数回答可)でアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施にあたり、メンティ3名は中学年の担当であることと、アンケート調査自体が負担とならないよう、生活科と家庭科は簡略化した

アンケートの項目(下位項目)
・国語(下位4項目)、・算数、・理科、・社会、・道徳、・生活科、・家庭科、・体育(下位7項目)、・特別活動(下位2項目)、・図工(下位3項目)、・総合的な学習の時間、・音楽(下位3項目)

### ③ アンケートの結果と考察

	A教諭			B教諭			C教諭		
	4/11	4/25	5/13	4/11	4/25	5/13	4/11	4/25	5/13
アンケート実施日	4/11	4/25	5/13	4/11	4/25	5/13	4/11	4/25	5/13
丸がついた項目数	1	7	7	4	9	11	6	10	13

5月になるとメンティは概ね各教科指導をできると感じている。加えて、宿題のノートも午前中にチェックを終えて児童にやり直しをさせる姿も見受けられるようになり、学級事務に追われることも少なくなった。これらのことから、授業研究は、5月中頃から行うことが妥当であると考えられる。

### (4) 内容についての検討

#### ① メンティが求める研修項目を調査するアンケートの結果

1年次研修シラバスに示された研修項目から、メンティが研修したいと思う項目に丸をつける方法(複数回答可)でアンケート調査を実施した。結果は以下の通りである。

研修項目	下位項目数	3名共通して選んだ項目(下位項目数に対する割合)	2名共通で選んだ項目(下位項目数に対する割合)
各教科	27項目	14(52%)	5(19%)
道徳	1項目	1(100%)	0
特別活動	9項目	1(11%)	5(56%)
総合	2項目	0	0
外国語活動	2項目	0	0
基礎的素養	12項目	5(42%)	6(50%)
学級経営	12項目	11(92%)	1(8%)
生徒指導	10項目	1(10%)	8(80%)
人権教育	6項目	0	4(67%)
特別支援教育	5項目	2(40%)	0

※実施日 2014年8月、割合が50%を越えているものは太字で表記

#### ② アンケート結果の考察

メンティが3名とも共通して選んだ項目数が、下位項目数に対して割合の高い順に見ると、道徳、学級経営、各教科となった。よって、これらの研修項目は年度当初から重点的に設定する必要がある。加えて、2名が共通して選んだものを同様にみると生徒指導、人権教育、特別活動、基礎的素養の順となった。これらの内訳は「勤務内規と成績処理」「問題行動の対応」等、学級経営に直接的な関わりがあるものであった。よって、これら研修項目は通信表作成の時期に合わせて「勤務内規と成績処理」を設定する等、時期を勘案して設定することが妥当である。

### (5) 校外研修と関連させる校内研修について検討

研修の目的は「知識・理念・概念の理解」「技術・スキルの習得」「問題解決能力の向上」「行動・態度の変容」の4つに分けられる(※引用8)。また「知識・理念・概念の理解」「行動・態度の変容」を目的とした研修は定期的に行い、「技術・スキルの習得」「問題解決能力の向上」を目的とした研修は繰り返し行うことが望ましい。

よって「サービスと義務」「公務員倫理」等は、研修の機会が定期的に得られるように、校外研修と半年程ずらして行うと研修の効果が高いと考えられる。

また、学習指導に関するもの等は、繰り返し行う必要があり校外研修と時期をずらす必要性は低い

と考えられる。

#### (6) 段階的育成目標の構想

以上、ここまで述べてきたことを基に、以下のように1年間の段階的育成目標、年間研修計画(※別紙資料)を構想し、校内1年次研修試案(※別紙資料)を作成した。

段階	期間	目標
開始期	4月～5月中頃	指導教員とともに、学級経営を円滑に行う
試行期	5月中頃～8月	指導教員の支援を受けながら、学級経営を行う
充実期	9月～12月	必要に応じ、指導教員の支援を受けながら、学級経営を行う
自立期	1月～3月	指導教員の見取りのもと適宜支援を受けながら、自立した学級経営を行い、次年度への見通しをもつ

#### 7 全体考察

メンタリングを位置付けた校内1年次研修を試行するにあたり、3点の具体的方策を行った結果、以下について有効性が認められた。

- 個別メンタリングを位置付けることは、負担軽減を図りつつメンティにより即した研修を充実させ、学級経営の高める上で有効であることが認められた。
- 教員ごとの役割を明確にするとともに、集団メンタリングを位置付けることは、メンティの協働性を高める上で有効であることが認められた。
- メンタリングを行う上で、指導教員がサーバントリーダーシップの実現に努めることは有効であるとの示唆を得られた。根拠は以下の通りである。

メンティから評価を受けたサーバントリーダーシップ各項目の平均				
傾聴	共感	癒し	気付き	納得
4.58	4.67	4.17	4.83	4.75
概念化	先見力	執事役	関与	コミュニティづくり
4.67	4.75	5	4.75	4.67

※評価期間 2014年8月～12月(計4回)、5件法、N=3

#### 【個別メンタリングについてのメンティの感想】

- 相談し、アドバイスをしていただき、それを実践して少しずつ成果が表れてくるのが非常に楽しく思います。
- 段階を踏んで低い目標から高い目標へ移行したので取り組みやすかったです。自分のやりたいことに沿ったアドバイスをいただけたので、やる事が明確になりました。
- 話を聞いていただき、その都度適切なレスポンスをいただけるので悩みが解決します。

- 校内1年次研修に多くの関わる職員が関わるができるよう、校内人材による講話、メンティの振り返りを兼ねた講話担当者へのお礼の一筆箋、1年次研修の様子を伝えるお便り、これら3つの取り組みを行った。その結果、学校の活性化につながった。

## IV 成果と課題

### 1 成果

- ・ 1年間指導員が常駐することで、タイムリーに助言・指導を行うことができた。
- ・ 固定された研修時間以外でも、必要に応じて、清掃指導、給食指導、朝の会や帰りの会、道徳の時間などの様子を観ることができ、その時に応じた助言をすることができた。特に副任となった教諭への指導が柔軟に対応できた。
- ・ 校内研修に全教職員が立ち会うことで内容が共有化でき、継続、あるいは関連した研修をすることができた。

### 2 課題

- ・ 学校の実態に応じた校内研修内容の系統化
- ・ 小学校における副担任の位置づけになった教諭へのメンタル面のサポート体制の充実
- ・ 2年目となる教諭の研修の充実と追跡調査

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、福岡市教育センターが実施した平成26年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。